

メディカルマネジメント・コーチング

連載を始めるにあたって

コーチングという言葉聞いたことがあるという人は、大勢いらっしゃると思います。また実践しておられる方も多いことでしょう。

昨今、ビジネス・コーチングを取り入れている企業が確実に増えてきています。しかしながら、医療界ではまだまだコーチングというものが浸透していないように感じられます。一般の企業と違い病院のなかで働く人たちは、病医院開業や独立など、皆が同じ目標に向かっていくという世界ではありません。プロフェッショナルな人たちの集まりです。それぞれの個性を尊重しながらも、できるかぎりベクトルを同じに向けなければなりません。その集団をまとめていかなければならない医療界こそ、コーチングというスキルが必要になってくると私は考えています。

まず初めに、コーチングについて少し説明しましょう。コーチングにもいろいろ種類がありますが、今回の連載では、病院の組織運営を円滑に行うための、メディカルマネジメントに焦点をあてようと思っています。

コーチングとリーダーシップ

コーチングとは？ 簡単にいうと、病院の責任者や上司が、部下の指導育成のために行う対話型のプロセスのことです。その相互の関わりの中で、個人が持つ潜在能力を最大限に引き出し、目的達成、問題解決などの手助けを目的としたコミュニケーションのことを指します。

現代人はあらゆる疑問や悩みを抱え「自分はどうなりたいのか?」「自分の目標はなんだろうか?」「自分がこの組織で何ができるのか?」「何か始めなければいけないか?」

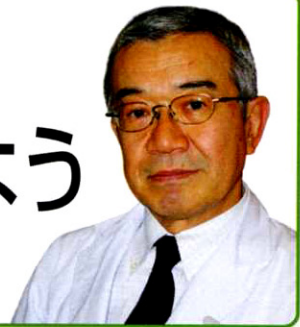


「コンセンサス型リーダー」は、手帳が外科医の舞台だとして、自分が主人公になっている。いろいろな脇役が働いていて、たとえ自分が終わってしまったときには、それを支えてくれた人たちに對して「ご苦労さま」といって、安心する。と派遣先にいる医師は、安心する。

「エンペラー型リーダー」は、自分が中心で、周囲の人々を動かして、自分の意志を押し通す。自分が中心で、周囲の人々を動かして、自分の意志を押し通す。自分が中心で、周囲の人々を動かして、自分の意志を押し通す。

第1回 コーチングをマネジメントに活用しよう

和歌山県立医科大学麻酔科学教室教授 畑 義雄



「ご苦労さま」ありがとうございます。という言葉をかけていただきたい。それが「承認」ですね。それだけで長い手術の間の緊張や疲れというものが、消えてしまうんです。それがいい人、チーム医療をやっていくのは難しいです。そのチームの一役を担っている人たちに對して、コミュニケーションは最低限必要なスキルです。

「ご苦労さま」ありがとうございます。という言葉をかけていただきたい。それが「承認」ですね。それだけで長い手術の間の緊張や疲れというものが、消えてしまうんです。それがいい人、チーム医療をやっていくのは難しいです。そのチームの一役を担っている人たちに對して、コミュニケーションは最低限必要なスキルです。

「ご苦労さま」ありがとうございます。という言葉をかけていただきたい。それが「承認」ですね。それだけで長い手術の間の緊張や疲れというものが、消えてしまうんです。それがいい人、チーム医療をやっていくのは難しいです。そのチームの一役を担っている人たちに對して、コミュニケーションは最低限必要なスキルです。

「ご苦労さま」ありがとうございます。という言葉をかけていただきたい。それが「承認」ですね。それだけで長い手術の間の緊張や疲れというものが、消えてしまうんです。それがいい人、チーム医療をやっていくのは難しいです。そのチームの一役を担っている人たちに對して、コミュニケーションは最低限必要なスキルです。